

2018年度熊本県温室効果ガス総排出量について

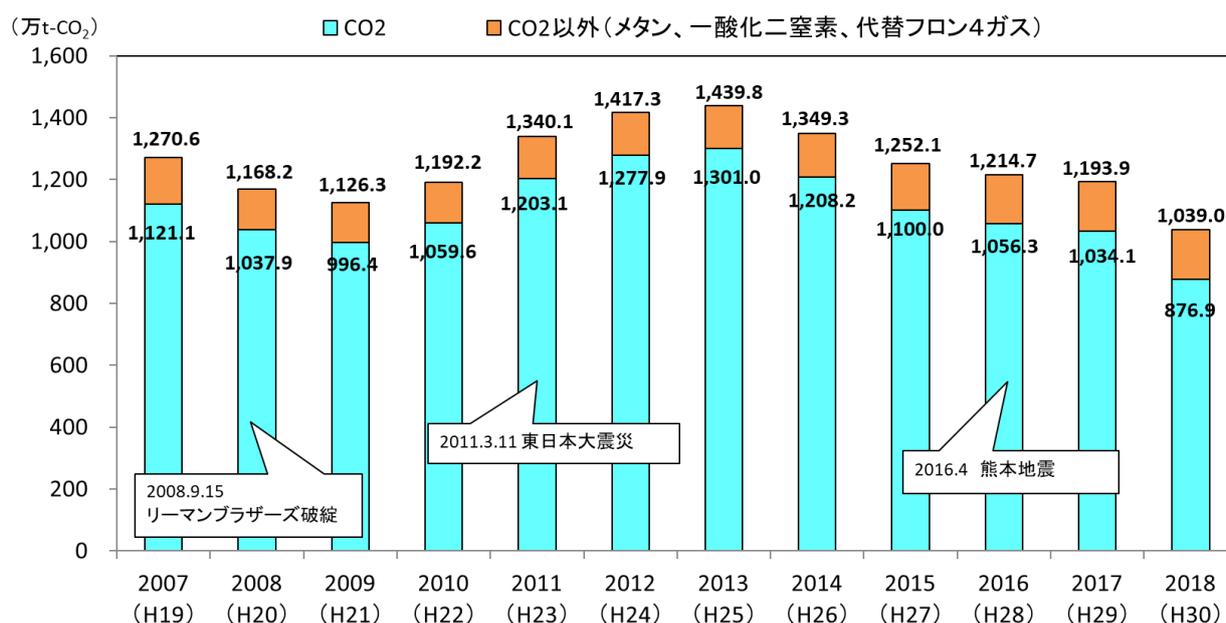
令和3年（2021年）3月19日
環境立県推進課

1 県の温室効果ガス総排出量の推移

温室効果ガス総排出量は、2008年度の景気の悪化に伴い低下傾向が見られたが、その後の景気回復や猛暑の影響等により、2010年度には増加に転じた。2011年3月11日発生 of 東日本大震災後は、火力発電の割合の増加等により総排出量は増加したが、その後、節電の取組みや再生可能エネルギーの導入拡大等により、2013年度をピークに減少に転じている。

2018年度の総排出量は1,039万t-CO₂（内CO₂は876万9千t）、前年度比13.0%減（CO₂は15.2%減）、基準年度2013年度比27.8%減（CO₂は32.6%減）となり、第五次環境基本計画の2020年度目標（表1）を上回る削減率を達成した（図1）。

図1 温室効果ガス総排出量の推移※



※温室効果ガス排出量算定の上で重要な資料となる「都道府県別エネルギー消費統計」については2018年度版から統計方法が改正され、過年度に遡ってデータが修正されたことを踏まえ、本県の排出量も過年度に遡って修正を行った。

表1 本県の温室効果ガス排出量削減目標（第五次環境基本計画）

| 目標年度 | 温室効果ガス排出量削減目標 |
|--------|---------------|
| 2020年度 | 2013年度比 18%削減 |
| 2030年度 | 2013年度比 30%削減 |

2 県の温室効果ガス排出量の部門別内訳等

部門別の内訳は、産業部門が3割以上を占め最も多く、次いで運輸、家庭、業務部門となっている（図2）。

また、前年度比では産業部門が9.3%減、運輸部門が2.9%減、家庭部門が27.7%減、業務部門が24.1%減となっている（図3）。

図2 2018年度温室効果ガス排出量の部門別内訳

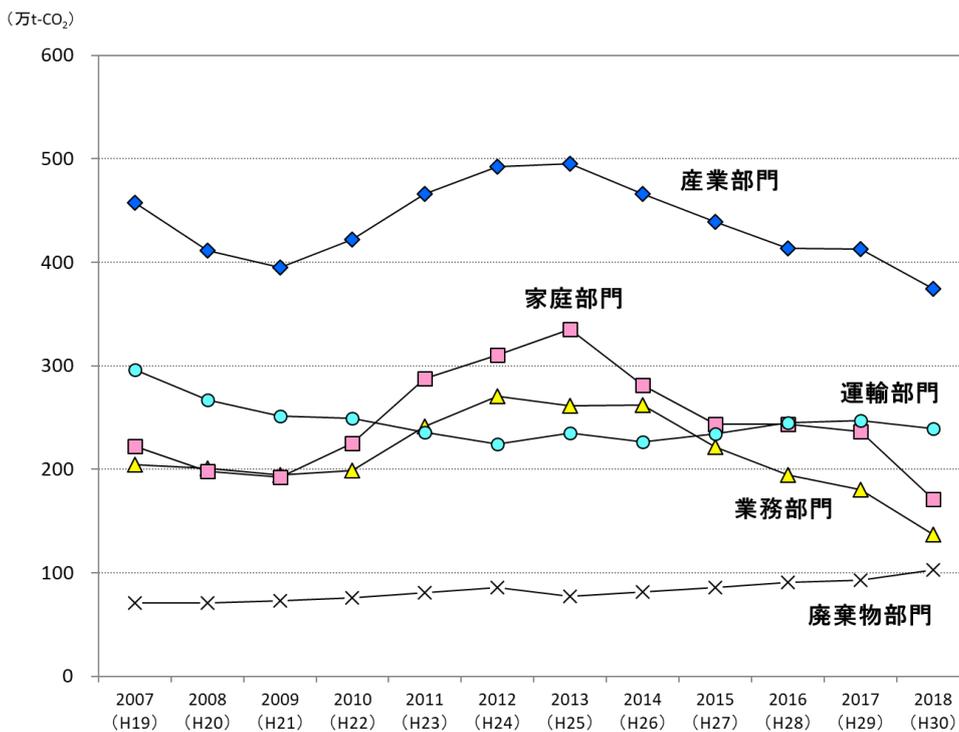
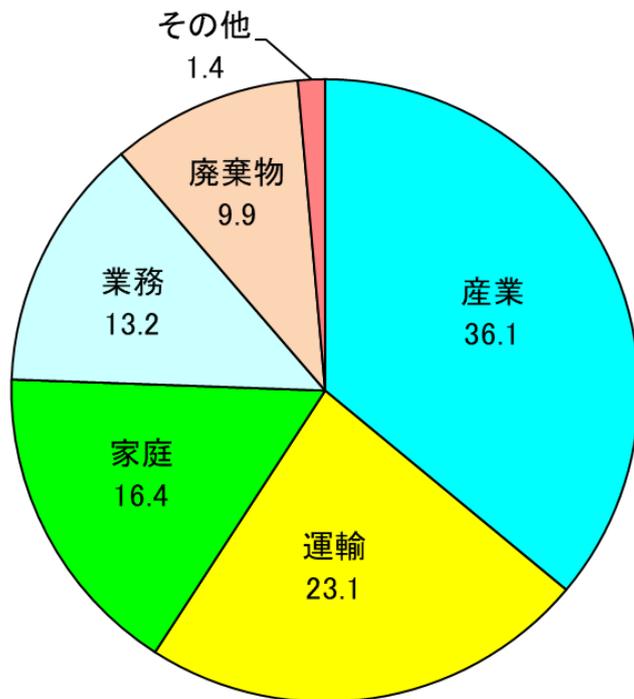


図3 部門別排出量の推移